

第6回 名桜大学高大接続勉強会実施報告書

2021年12月6日(月)に名桜大学学生会館4階研修室にて、今年度2回目となる「第6回 名桜大学高大接続勉強会」を開催いたしました。今回は、対面で行い高校教員7名、本学教員13名が参加し、有意義な勉強会となりました。本会は、第5回勉強会に引き続き、高等学校と大学の相互理解の場として、高校教育の現状や大学が目指す教育改革の方向性について意見交換を行い、高大接続の実質化に向けた具体的な方策、特に令和4年度入学予定者に対する入学前特別講座のあり方を共に考えることを目的としました。

入学前特別講座は、本学のリベラルアーツ機構主催で行われます。今回は、小番達リベラルアーツ機構長が司会進行を務め、高大接続の課題を共有し、入学前特別講座への理解と協力を求めました。

内容は、前回に引き続き、「北部地区7校出身学生に対するアンケート結果報告 その2」、「北部地区7校出身学生の入学後の成績・学力調査結果報告 その2」を行い、報告に対する意見交換を行いました。続いて、2022年度入学予定者の入学前特別講座について、「入学前特別講座Ⅰ」(2022年2月14日(月))、「入学前特別講座Ⅱ」(2月15日(火)~17日(木))の予定について説明いたしました。

次に、2021年12月1日から始まる「2022年度入学予定者のeラーニング教育について」の説明がありました。これは、北部地区だけではなく、総合型選抜・学校推薦型選抜等の全合格者対象のeラーニング教育で、規定の点数に達しない学生には入学後も引き続き(2022年11月30日まで)自主学習を課している取り組みであるという説明がありました。

情報交換では、学生の休学、退学の状況や、再入学者の奨学金の復活について等、多岐にわたる質問が出されました。また、留学やワーキングホリデーについても活発な情報交換を行いました。さらに、アンケート結果を通して、入学前から入学後の学びへの高大接続に関する現状や課題について理解を深め、さらなる詳細な分析に期待を寄せる要望もいただきました。

アンケート結果から、入学前特別講座の不参加者ほど、入学後の学生生活にも支障をきたしていることが把握され、入学前特別講座は全員が参加できるような指導を含めて高等学校にも理解を求めました。

意見交換を通して、入学前の目標を堅持し、入学後に主体性を自覚させる方法として、入学後の指導に繋ぐ入学前特別講座の必要性や意義を改めて考え直す良い機会となりました。

事後アンケートの結果(次頁)からは、本会の目的をしっかり認識し、丁寧に連携の道を探っていきたいというコメントがありました。高大接続勉強会の今後の進め方については、企画の段階から、高校の教員も参加した方が良いという意見も寄せられました。また、卒業生のその後について意見交換が出来てとても有意義な勉強会でしたという感想をいただき、双方にとって有意義な勉強会となりました。



写真 第6回高大接続勉強会の様子

<参加された高等学校の先生方の感想・意見・要望等>

- ①「入学後に特に力を入れて取り組んでいることがない」という 9 人の生徒の分析で、志望校の決定の遅さとの関連もあると思うが、コロナの影響（家計の困窮化や授業のオンライン化、学校生活における人間関係の希薄化など）との関連はないか？も気になった。
なかなか難しいと思うが、追跡調査・分析すると、さらに見える部分もあるかもしれないとも考える。
- ②高大接続の課題として挙げられている「基礎学力の不足」に関して、高校側の認識としては、評定が高い生徒が推薦され、進学している。個人的には、高校での高評価・高評定を取る学習のあり方や獲得されている資質・能力と大学での学習に必要な資質・能力の間に大きな開きがあることに課題がある（結果、生徒自身も学力がないと自己認識する）かとも感じる。その部分で、生徒も大学での学びに混乱しているところや、自分に学力がないと認識する部分もあるのではないかと。そこに、コロナ禍でのオンラインの学習で、友人などとの協同的な学びの部分が減ったことで、さらに混乱が増したのではないかと考える。その部分を埋め、効果的なサポートを行うため、北部学生の実態について大学と北部高校進路担当者が情報を共有して、問題点を意見交換できたことは良かった。
- ③今後の高大接続の効果的なあり方を検討できればと個人的に思った。
- ④学業への取組状況やアルバイトの実態、除籍退学などの状況が分かって、高校での進路指導の参考になります。学生の実態が把握できたので良かったと思います。
- ⑤設置主体である北部 12 市町村の高等学校と連携を深める点では良かったと考える。
- ⑥具体的な大学での生徒の学習や生活実態をデータをもとに、大まかに把握することができたのでよかった。
- ⑦高校生に対して、大学生活で大学生が持つ問題点や課題点を話すポイントとなるデータとなる。
- ⑧大学進学を希望している生徒へ、今回の情報を還元して、大学生として求められている力をしっかり身につけるように指導していくことができる点が良かったです。
- ⑨客観的なデータをもとに分析されている部分と観察や意見交換からの主観的な分析が入り混じっていて、どの部分をもとに生徒の実態を「客観的に把握するか」の部分で混乱が生じた。
- ⑩休学者の情報や留学・ワーキングホリデーへの参加状況を教えてください。
- ⑪低学力の学生への具体的なアプローチの方法の説明があれば良かったと思います。
- ⑫中々、北部地域の高等学校教員との交流がないので、大学に来てもらえることはありがたいと感じる。
- ⑬大学での学ぶ意義に関して、（その弱さを補うために）、高大連携しながら、出前授業などを活用して、1 学年時から意識づけて行けたらと考えた。
- ⑭大学における探求的な学びのスタイルに関して、高校の探求の時間との関連からも、大学側と連携していける側面があれば助かります。探求のテーマの設定・データや文献の当たり方や収集の方法、まとめ方や引用の方法など・・・。
- ⑮確かに、アルバイトの方に力点が置かれてしまって学業が疎かになるのはいけないと思います。それが、「学校生活や授業についていけないことからの逃げ」によるものであれば、丁寧に話をし、サポート体制を整えながら、本人のアルバイトの日数や時間などと学業との両立について厳しく論ずる必要があると思います。
その部分での客観的なデータがあれば、高校側の進路指導として、大学進学前に強く注意喚起することができます。他方で、その他の要因がないかも高大で連携しながら探ることができれば（丁寧に探る必要があるかと個人的には思います）、（高大連携した）より効果的な指導ができるかと思っています。
- ⑯この高大連携の目的である、人材育成を目的とした「高校教育と大学教育の相互理解」に基づく「一体的な教育改革」を進めるを、再度、しっかり認識し、そこに立ち返って勉強会ができればと考える。特に「相互理解」、「一体的」なを重視して、丁寧に連携の道を探っていきたい。
- ⑰北部 12 市町村の観点からすると、恩納村出身の学生も対象に入れてはどうだろうか。